

令和元年度広島県私立学校教育功労者表彰

学事課

被候補者氏名 (年齢)	職	功 績 概 要
しらいわ ひろあき 白岩 博明 (61歳)	学校法人 修道学園 広島修道大 学ひろしま 協創中学校 ・高等学校 校長	<p>○ 同人は、1958(昭和33)年8月5日、岩手県遠野市に生まれ、1984(昭和59)年3月國學院大學文学部文学科を卒業し、鶴学園に奉職した。広島工業大学附属工業高等学校(現広島工業大学高等学校)教諭(18年)、広島工業大学附属広島高等学校・中学校(現広島なぎさ中学校・高等学校)教諭(1年)、なぎさ公園小学校教頭(4年)、広島なぎさ中学校・高等学校校長(4年)、なぎさ公園小学校校長(4年)を歴任した。その後、鶴学園初等中等教育研究センター調査役(2年半)、広島工業大学教職課程センター長(半年)の傍ら、特任准教授(日本文学、民俗学)として大学の講義に携わった。2018(平成30)年4月から、広島修道大学附属鈴峯女子中学校・高等学校(今年度から広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校と校名変更)校長に就任し現在に至っている。鶴学園に34年、修道学園にて2年目。私学教育一筋で歩んでいる。</p> <p>なお、関係団体として、2010(平成22)年4月から広島県私立中学高等学校協会校長会幹事を1年間、2011(平成23)年5月から広島県私立小学校協会副会長を1年間、2012(平成24)年5月から広島県私立小学校協会会長を2年間、現在は2019(令和元)年5月から広島地区私立中学高等学校経営者協会監事に携わっている。また、この間、2003(平成15)年1月、玉川大学文学部教育学科(通信教育課程)を修了し、小学校教諭2種免許を取得。2018年3月には、広島修道大学大学院人文科学研究科教育学専攻を修了した。</p> <p>○ 広島工業大学附属工業高等学校(現広島工業大学高等学校)教諭(18年)時代は、早くに同和教育主任、教育研究部長として校内における教育研究分野の中心として尽力した。具体的には教員の教科教育力向上のため、それまで実施されていなかった校内研究授業を始め、定期的な実施体制を整備した。部活動においては、サッカー部顧問として前向きに取り組んだ。広島県大会ベスト8に数回進むなど、指導成果を残した。また、1992(平成4)年に開催された山形国体では、少年の部の広島県代表コーチを務め、広島県高校サッカーの発展に寄与した。</p> <p>なぎさ公園小学校教頭(4年)時代は、広島県内7つ目の小学校として開校したばかりの学校において、教職員の陣頭指揮をとって4年間多面的に尽力した。自然体験活動を大切にしたり、市販の教科書に頼らないオリジナルな手づくり教育を模索したり、音楽や図画工作など感性的教育を効果的に取り入れたりする小学校であったがため、4年目までの草創期を乗り切ったことは大変なことではなかったかと思われる。また、安田小学校とは学びのスタイルの違いは絶えず比較されることになり、児童募集においても相当な苦労があったことと察せられるが、幼稚園や学習塾を丁寧に訪問し、一定の受験者数確保に尽力したことはその後の小学校経営のベースの一つともなった。</p> <p>広島なぎさ中学校・高等学校校長(4年)時代は、学校として大きな転換期を迎えることになった時期である。1年目の校名改称、2年目の新校舎建設・校舎移転である。それまでの校舎は、広島工業大学構内の入り口付近にあったが、校舎の老朽化と生徒増(接続校のなぎさ公園小学校からの受入れを含め)のため新校舎建設と校舎移転となった。また、なぎさ公園小学校の隣接地に移転すること、なぎさ公園小学校からの接続校として12年一貫教育を“なぎさ”の軸にすることから、校名を広島なぎさ中学校・高等学校と改称した。時の校長として、2つの大事業が重なったことの労苦は想像するに難くない。また、「21世紀型高学力の養成、創造力の錬磨、国際性の涵養」の3つの教育目標に加え、「人間力の育成」を加えた“4つの柱”を整えた。それに基づいた教科学習の組み立てや学校行事の拡充や精選など、いわゆるカリキュラム・マネジメントに積極的</p>

		<p>に取り組んだことは意義深いことである。12年一貫教育を通じて有為な人材育成に取り組む学校としての土台形成に尽力した。</p> <p>なぎさ公園小学校校長（4年）時代は、12年一貫教育の前半6年の教育を可視化することを手始めに、学校教育と家庭教育の連動性を強く説いた。つまり、建学の精神（「教育は愛なり」）と教育方針（「常に神と共に歩み、社会に奉仕する」）、そして、教育目標である“4つの柱”（小学校は「21世紀型高学力を育てたい、グローバル生活人を育てたい、ふるえる心を育てたい、たくましいリーダーを育てたい」）の言語化である。そのことによって学校教育（教員）の役割、家庭教育（親）の役割を明確にすることがなされ、協働することによって子どもたちの人間形成が図られることを説いた。このことが後半6年間（中学校・高校）に受け継がれ、社会に巣立つ準備として12年間の教育が有効であることをまとめた。また、東日本大震災の被災地である岩手県大槌町、釜石市、宮古市などとの交流も始めた。実は岩手県は同人の出身地でもあることから、それが契機での交流活動でもある。当時の悲惨な状況や被災地の方々の想いを風化させないというのが現在でも継続している理由である。</p> <p>鶴学園初等中等教育研究センター調査役（2年半）時は、主になぎさ公園小学校の支援に回った。主に児童募集の広報活動を行った。その後、広島工業大学教職課程センター長（半年）となり、開設されたばかりの教職課程センターの充実に従事した。この間には、「読書へのいざない」と「日本語表現」の2講座を担当した。工学部の学生にとって苦手な分野の指導であったが、読書活動の意義と効果的な文章表現の修得に一定の成果を出すことができた。</p> <p>昨年から広島修道大学附属鈴峯女子中学校・高等学校（今年度から広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校と校名変更）校長に就任。広島なぎさ中学校・高等学校長時と同様、校名変更と新校舎移転を経ることになった。男女共学への移行ということもあり、新たな学校づくりに邁進している。</p> <p>(学校の所在地) 広島市西区井口四丁目 6-18</p>
--	--	---